

緑生瓦版

2010.03.01

第二十五号

生物多様性を思う

生物多様性の保全とは、
理屈では生物間の複雑な
相互関係を把握し：：と難
しくなりますが、生物の集
まりが環境（風景）なので
すから、風景を守る事と同
じではないでしょうか？
生物多様性が損なわれ
ていく時、風景に何らかの
変化があるはずですが。
それは自然度の多寡等に
は関係無く、どの地域にお
いても同様だと思います。
それぞれの故郷の風景が
守られ続けられ、そこには
昔ながらの生物が生き続
け、生物多様性も維持され
ていくはずですが。

調査部

小林 達彦

緑生研究所って、どんな会社…？

～ 自己紹介の巻 ～

年度末ということで、今回も当社の組織の紹介をさせていただきます。皆様には、いつもお世話になり、社員一同、心より感謝しております。本当にありがとうございます。4月からも、よろしくお願い致します。

(調査部 坪山聡)

大阪支所

〒561-0882
大阪府豊中市南桜塚2丁目6番地30号
カワサキビル2F
TEL:06-6840-7727 FAX:06-6852-3332
スタッフ数：4名
(植物、鳥類、昆虫類、陸産貝類)



北海道支所

〒003-0002
北海道札幌市白石区東札幌二条
5丁目8-26 3Dコートアネックス1F
TEL:011-817-7330 FAX:011-817-7112
スタッフ数：3名
(鳥類)



東京本社 (営業)

〒182-0026
東京都調布市小島町2-40-10 桐生ビル2F
TEL:042-499-7211 (代表) FAX:042-487-4334
042-499-7212 (企画・営業)
スタッフ数：2名



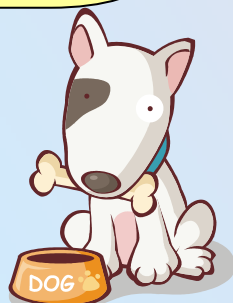
東京本社 (計画部)

TEL:042-499-7213 FAX:042-487-4334
スタッフ数：4名
(環境計画、環境デザイン、環境管理、GIS解析、モニタリング、植物、鳥類)



東京本社 (調査部)

TEL:042-499-7214 or 7215 FAX:042-487-4334
スタッフ数：12名
(植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、クモ類、魚類、底生動物)

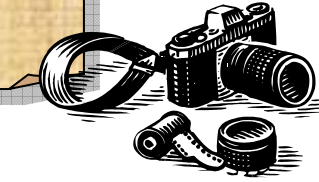


一有資格者数一

- ・技術士 (建設部門) 2名
- ・樹木医 1名
- ・技術士補 4名
- ・測量士補 1名
- ・ビオトープ管理士 (2級) 2名
- ・生物分類技能 (植物1級) 2名
- ・生物分類技能 (植物2級) 2名
- ・生物分類技能 (鳥類1級) 2名
- ・生物分類技能 (昆虫類1級) 1名
- ・生物分類技能 (動物2級) 3名



写真だよ



ジョウビタキ *Phoenicurus phoeniceus*

日本では冬鳥として、10月頃から翌年の4月頃まで見ることのできる小鳥です。庭先や公園などの身近な場所でも観察することが出来ます。昆虫類を主な餌としていますが、マサキやツルウメモドキなどの果実も食べます。雄は写真のように頭上の灰白色とお腹のオレンジ色が目立ちますが、雌は全体が灰褐色で地味な感じです。

ゲンジボタル *Luciola cruciata*

ご存じの方も多いと思いますが、これは夏の夜に幻想的な光のワルツを見せてくれるゲンジボタルの幼虫です。あの光からこの姿を想像することは難しいかもしれません。お腹のたくさんの突起は脚ではなく、鰓肢という呼吸器官です。夜露を吸うだけの成虫とは違い、幼虫は食欲旺盛で、カワニナ（巻貝）を美味しく食べて、3cmほどに育ちます。



アンケートのお願い！

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、株式会社緑生研究所（坪山）宛に FAX (042-487-4334) をお願いいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。第二十六号は、連休三日目となっていて、いろいろとありますが、五月一日の発行を予定しています。特集では『植物の生育環境の解析』について、その手法と事例を紹介します。



今年もソメイヨシノの開花日予想が発表されました。関東では例年より早めに咲き始めるそうです。ソメイヨシノがオオシマザクラとエドヒガンの雑種である事は有名な話ですが、江戸の染井村から生まれたこのサクラは、あつという間に日本全国に広まりました。学校や公園、街中でいたるところで見かけます。ソメイヨシノの一気に咲く華やかさも良いですが、ヤマザクラのおやかさも捨て難いものです。白い花と赤い新芽のコントラストもきれいで、一枚の絵のようです。日本人からとても愛されている春の花サクラ。今年の出会いはいつになるのか楽しみです。

